



アカシア俳句会



令和六年 秋季俳句会「句報」 秋の季語を含む作品一〇五句

「選句」 赤文字：特選

「投句」作品

作者

福豆秀	博	福	由	恵光	福光	福	元	以博志	展	茂福以	由秀	恵光秀	展														
終列車月夜鳥の大欠伸	風吹きて臉の裏に秋は来ぬ	揺れる脚秋の蚊愛し椀の縁	三十年前の写真に秋の風	堂に来て若輩一人秋彼岸	旭岳一足早くナナカマド	コスモスが背丈の2倍空に咲く	支笏湖のカヌー教室秋の空	北の空戻る大阪秋暑し	鈍る脳俳句ひねりつ眠る秋	歟休め聞き惚れ畔の虫の秋	毬（イガ）残しお猿の宴栗拾い	お月見や原句孕み（ハラミ）句枕元	団子屋の語る由緒や月の色	お湿りもほんの少しで虹の橋	葛紅葉壁にからまる古き駅	山に来てこれが茅かとすすき見る	暑き秋やつと咲いたよ曼殊沙華	紅葉狩祖父の謡を思い出す	昨日芋今日はカボチャの時代あり	植木鉢返す手元を秋の風	授業終え下りる坂道秋夕日	秋気澄み始発ふみきり電車音	鶏頭花ビロード光り子規想ふ	薬師寺の心柱立ち祈る秋	穂芒のいつまで風に揺るるやら	三姉妹ままごとす夢山椒の実	秋更くる思えばかりではかどらず
藤井光正	藤井光正	藤井光正	藤井光正	藤井光正	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	佐藤茂弘	佐藤茂弘	佐藤茂弘	佐藤茂弘	佐藤茂弘	加龍恵子	加龍恵子	加龍恵子	加龍恵子	加龍恵子	吉田以登	吉田以登	吉田以登

茂	由惠志	展博秀	以	茂惠	元秀	惠	亘	茂亘元展以由光志	博志	亘元展光志	亘元由博	以																																
地震(ない)の村秋の出水に痛ましき	立秋の当日なれど汗しとど	初雪の富士の嶺(ね)迫る機窓かな	三丘生同士結婚孫の幸	蠅螂の気取って歩く門扉かな	小窓より名画の如く月上る	故郷の柿法張りて笑う母	カラカラと花野を渡る風の声	空をゆく風に惑いて色葉散る	天高しみ空に真白点々と	わが青春のアラン・ドロン逝く秋の日よ	「羅生門」「將軍」うれし秋日和	「学校に行ったり笑ったりしたい」戦の子	黄泉の友思ひつつ秋の句をつくる	吾をつくりし三国の三年(みとせ)秋の雲	つんと来て季節告げをり赤蜻蛉	遙かなる太鼓の地鳴り秋まつり	衰えし葉裏に艶の名残茄子	散りてなほ地上の錦濡れ紅葉	秋句会十年(ととせ)の巡りなほ深し	中野亘子	中野亘子	中野亘子	中野亘子	野本展子	野本展子	野本展子	野本展子	野本展子	山家由紀	山家由紀	山家由紀	山家由紀	山家由紀	山家由紀	山家由紀	山家由紀	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一

【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いします。

投句、選句者氏名 () 内は選句者略号(五十音順)

網 佑子(佑)、岩崎悦子(岩)、加龍恵子(恵) 楠野圭子(圭)、佐藤茂弘(茂)、戸堂博之(博)
 中野亘子(亘)、西村敏治(敏)、野本展子(展)、藤井光正(光)、前田秀一(秀)、三木徳彦(徳)
 都 福仁(福)、元永悦子(元)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志)、吉田以登(以)

編集人 前田秀一

